

令和4年度和歌山県文化功労賞

みやざわ とし お
宮澤 敏夫

住 所 静岡県静岡市
出身地 台湾台北市
生 年 昭和18年

◎ 業績及び経歴

昭和18年台湾台北市に生まれる。昭和41年武蔵野音楽大学器楽学部弦楽器科を卒業後、大阪フィルハーモニー交響楽団にコントラバス奏者として入団。同年から和歌山市に居住し、演奏活動の傍ら和歌山でのクラシック音楽振興を図るため「和歌山音楽振興会」を主宰。昭和45年から平成21年まで約40年間にわたり日本最高水準の演奏家を数多く和歌山に招聘し、市民参加型クラシック鑑賞の文化の礎を築く。

昭和48年、同53年の2度にわたりウィーン国立音楽大学に留学し、ルートヴィヒ・シュトライヒャーに師事。帰国後、大阪フィルハーモニー交響楽団の首席コントラバス奏者に就任し演奏家として活躍するも、昭和61年財政難にあった同交響楽団を立て直すため、自ら事務局長に就任。オーケストラ再建と関西の文化の向上発展のために尽力する。平成5年には公益社団法人日本演奏連盟の事務局長に就任し、日本の音楽文化の振興と若手演奏家の育成指導に注力。平成16年には財政難に陥った札幌交響楽団の事務局長に就任し、経営再建と共に、アジア・ヨーロッパ公演、北海道全市町村での公演を見事に成功させ、同交響楽団をプロオーケストラとして初の公益財団法人化へと導いた。

平成30年からは静岡交響楽団の専務理事に就任し、新型コロナウイルス感染症の影響で苦境に立たされた浜松フィルハーモニー管弦楽団との合併及び公益法人化に尽力、公益財団法人富士山静岡交響楽団の誕生に大きく貢献した。

また、長野県伊那文化会館の館長就任や、倉敷音楽祭、木曾音楽祭等のプロデュースなど、日本各地の音楽文化の向上発展にも寄与している。

日本を代表する交響楽団の再建から、各地方都市の文化振興まで手がける氏の功績は、音楽文化の発展を牽引するものであり、誠に多大である。

■ 現 在

- ・公益財団法人富士山静岡交響楽団専務理事